

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192500468		
法人名	有限会社アートライフ		
事業所名	グループホームあおぞら南永井		
所在地	埼玉県所沢市南永井2-7		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・建物が平屋造りで広く開放感があり、ユニット間の行き来が楽にでき交流がしやすい。職員の協力体制が取りやすいです。 ・eラーニング、資格支援制度があり、職員のスキルアップ、サービスの向上に努めています。 ・家庭的な環境を作るように配慮しながら生活支援をおこない、緑が多い環境の中で、施設内外を散歩したり、外気浴をおこないながら、季節の移り変わりを感じて頂いています。 ・個々のご利用者に出現する周辺症状に対して職員が理解して個別ケアを実践しています。 ・生活の場としてだけでなく、ADL低下を防ぎ、残存機能を維持する為の取組をおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人の行動理念に沿った前向きな取り組みで、利用者一人ひとりとコミュニケーションを大切に、その人が望む暮らしが継続できるように支援をされている。また、ユニット間の行き来が自由に行えることで幅広く交流ができ、活動性も高められている。 ・運営推進会議は、コロナ禍から開催ができない状態ではあるが、要望や意見は電話で聞き取られ事業所運営に役立てられており、今後は書面開催を検討されている。 ・目標達成計画については、火災と夜間の地震を想定した避難訓練が実施され、コロナ禍から近隣住民との合同訓練が難しい中、消防署の協力で何が問題なのか助言を受け、課題解決に向けて取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が目にする場所に理念を開示し常に目を通せるようにしている。	利用者の思いを受け止め、利用者のペースに合わせた支援が実践されている。否定せず、できることを認め、3つの行動理念を念頭に、利用者の尊厳を大切にケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	行政の指導もありコロナ禍で地域交流はおこなっていない。	コロナ禍から交流が難しい中ではあるが、農家の方から野菜をいただいたり、散歩時には挨拶をかわされるなど、行える範囲で地域とのつながりを大切にしたり取り組みが実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり地域交流はおこなっていないが、オレンジウィークに写真を提供して認知症の方の様子理解してもらえるようにした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の指導もありコロナ禍で運営推進会議は延期している。個別で電話にて要望や意見を聞いてサービス向上に活かしている。	感染症予防対策の観点から開催できない状況ではあるが、要望や意見は電話で聞き取られ事業所運営に役立てられている。今後は書面開催を検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍でのサービス取組みについて相談している。生活保護者の受入れをおこない協力関係を築いている。	日頃から連携をとることに努め、事業所の取り組み状況等お知らせし、市からは感染症対策の留意点や研修案内をいただいている。また、生活保護担当者の訪問もあり、双方向の交流に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。不審者の侵入を防ぐ為に玄関の施錠はおこなっている。	日頃の研修で周辺症状に合わせた対応や薬に頼らない方法を学ばれ、利用者の思いを理解し失敗を咎めず、安心していただけるケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の資料を用いた全体会議を開催し周知徹底をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	eラーニングで個別研修をしながら職員会議での資料回覧をおこない周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の見学、申込、契約、入居の各段階での説明を重ねておこなっている。電話連絡にて不安や疑問を確認して答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の指導もありコロナ禍で運営推進会議は延期している為、電話にて意見や質問を頂き、回答は書面にして郵送している。職員へは書面を回覧にしている。	利用者とはゆっくり話を聴かれ、鉢植えや散歩などが実践されている。家族からは電話や手紙、ガラス戸越しの面会などで聴き取られ、日頃のケアに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット単位の会議、全体の会議を開催している。職員の意見を聞き、代表者に伝え、運営に役立てている。	食事や排泄など介助方法に迷ったときには職員間で話し合わせ、新たな方法が提案されている。また、駐車場で焼き芋パーティーの開催、利用者が先生になり作品を作られるなど、利用者に喜ばれる提案が日々取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍で外部に研修に行けない代わりにオンライン研修を受けられる支援をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には理念や介護の心構えなど基礎から指導している。全職員がeラーニングを受講してスキルアップに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の指導もありコロナ禍で同業者との相互訪問の機会は少ないが、地域包括支援センター、市の介護保険課、居宅支援事業所から他の取組状況や運営方法の情報を集めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用し、生活歴や趣味などの情報を得ながら、利用者様とコミュニケーションを取り、不安や要望がないか傾聴し、信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にどのようなサービスをうけていたのかご家族様から伺い、現状での確認を行っている。そのうえで利用者様のニーズに合ったサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から困っていることを聞き、支援すべき内容を把握して、その人らしい生活が遅れるようサービスを提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の「こだわり」「できること」「やりたいこと」を尊重し、見定めながら本人の自信につながるよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中での面会等に配慮し毎月のお便りで様子を伝え、本人の変化などの理解をしていただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響により外出が困難であったため、電話での関りや、数分の面会対応となっているが、引き続き支援を行う。	昔の写真をアルバムにし、その時々思い出話や少人数で馴染みの場所をドライブなどが実践されている。また、ユニット間は自由に行き来ができ、気の合う人同士がソファで談笑されることも多くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者様には、職員が間に入るようにし、話の渡し役等を行い、過ごしやすい環境を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時に電話連絡を取るなど、相談しやすい環境づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の思いや意向を把握するよう観察し、職員同士で検討している。	晩酌の習慣があった利用者には、ノンアルコールで楽しんでいただいたり、畑仕事をされていた利用者にはナス、オクラなどの野菜作りを手伝っていただくなど職員間で情報を密にし、利用者の思いを汲み取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様に現状を聞き、把握に努め支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録をとり、生活の現状把握を行い、日々の変化に注視するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、モニタリングを実施し、それぞれの課題を定期的に話し合う場を設け、計画書に反映するようにしている。	カンファレンスで話し合われた内容をもとに、できること、行いたいことを尊重し、個別性に配慮された介護計画が作成され、職員間で共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートで情報共有をし、日々の様子を把握することにより検討や対応を行うよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に現状の満足度などの確認を行い、サービスの内容の見直しをするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政の指導もありコロナ禍で地域資源との協働は延期している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や訪問看護、訪問歯科があり、利用者の状態や希望に応じている。	整形外科や皮膚科の往診もあり、利用者の健康状態に配慮された支援がなされている。かかりつけ医を受診した際は、申し送りノートで共有し、24時間対応可能な体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の観察をおこない気になる事は申し送りノートに記載し主治医等に報告し指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には介護サマリー作成し病院での看護に役立つようにしている。入院中は病院相談員と連絡を密にし退院後の支援に役立たせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人状態によって施設での対応に限界がある事を伝え、利用者本人を最優先に考えている。	看取りは行われていないが、看取り指針に基づき、施設としてできる最大の方法で支援をされている。状況に応じて、他施設への紹介も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部研修がおこなえなかった為、施設内研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防署立会いの避難訓練、消防訓練をおこなっている。	火災と夜間の地震を想定した避難訓練が実施されている。歩行不安定な利用者の安全な避難方法について消防署に相談をされたり、優先順位を教えてくださいなど、災害対策に熱心に取り組まれている。	夜間を想定し初期対応時の職員の対応や連絡網を使って時間を図ることを検証されスムーズな消火活動が実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴を理解把握しながら人生の先輩に対する敬意ある態度と姿勢で言葉をかけたり、接するように心がけている。	コミュニケーションを大切に、利用者が行いたいことやできることを尊重し、言葉掛けにも配慮した対応で信頼関係構築に取り組まれている。また、入浴時の同性介助や職員同士の会話では小声で話すなどプライバシーにも配慮がなされている。	誰が行っても同じ対応ができるように職員の介護技術がより高められることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る機会を多く持ち、表情や言葉から希望する気持ちを汲み取り、実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを理解把握し個々のリズムに沿って無理なく心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、身だしなみに気遣いし利用者の好みの服装で過ごせるようにその都度本人の意思を確認している。二か月に一回出張の理美容を再開した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意や食器洗い等を協力しておこなっている。食事中は職員との会話も多く時間を共有している。	配膳、下膳、食器拭きなどできることは行っていたり、家庭菜園で作られた野菜や近所の方からいただいたものも提供され、おやつ作りも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の嗜好に合わせた形状を考えている。外注である為、栄養バランス等は考えられている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが健康状態と密接に繋がりを念頭に置き、口腔内の清潔保持に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンの把握を行い、一人一人に合わせた声掛けやトイレ誘導、パッドの使用などにより排泄の自立を促すように努めている。	トイレで排泄を行う感覚を知ってもらうことが大事と考え、小まめな声掛けや誘導を繰り返すことで失敗を少なくし、自尊心を傷つけず自立に向けた支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便状況の把握を行い、医師との連携を図りながら、個人に合った支援を行っている。また、10時と15時に乳製品の摂取を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に意向を確認し、入浴拒否のある方においても声掛け等の工夫を行い、清潔が保たれ、気分転換にもなるよう、個々にそった支援を行っている。	拒否される利用者には「湯の森に行きましょう」「スーパー銭湯ですよ」などの声かけで気持ちよく入浴が行えるように支援がなされている。入浴剤で温泉気分浸っていたりなど個々の利用者に応じて柔軟な対応がとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の習慣や体調に応じて休息が行えるよう、日頃の状況を把握し、声掛けなどにより安心して休める様に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用を理解するよう努め、服薬内容の変更の際は申送りを周知徹底し、また、様子観察を行っている。誤薬や飲み忘れ防止の為二重確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、個人に合わせた家事等の役割を分担し、自信を持って過ごせるよう支援を行っている。歌や体操、娯楽などの嗜好の把握を行い、誕生日会等のイベントを実施し、気分転換を図り、張りのある日常を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、外出支援が難しい状況ではあるが、施設の玄関先での日光浴や施設周辺の散歩を行い支援可能な範囲で行っている。	近くの公園でお花見、車で神社、航空公園などに出かけられている。コロナ禍ではあるが、周辺の散歩や駐車場で外気浴や日光浴なども日常的に実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買物同行の支援は中止している。お金は事務所に預かりお小遣いとして使えるようになっており、利用者が希望する物があればお小遣いから職員が代行して買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方や本人が希望すれば事務所の電話等から連絡はできる。LINEのビデオ通話を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と共に季節に合った飾りつけをおこなったり、製作の展示、行事の写真を掲示している。	吹き抜けで開放感のあるリビングには、職員と一緒に作られた季節の作品が飾られ、清潔感のある共用空間が広がっている。ユニット間の境を開放し、双方の交流が行われるなど居心地よく過ごせるように工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平屋造りの為、両ユニットや玄関への行き来は自由に行ける。玄関にもソファを設置しており、休憩できるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類や日用品はご家族と相談しながら使い慣れたものを持参して頂いている。趣味嗜好にあったものを飾って頂く。	家族と一緒に配置を考えた室内には、使い慣れた家具や家族の写真、動物の写真などが飾られ、気持ちよく過ごせる部屋が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室や席には名前を貼っている。できる事を尊重し自由に生活して頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名: あおぞら南永井

作成日: 令和 4年 2月 1日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	○感染対策 新型コロナ感染拡大しており、終息が見えない中での徹底した感染対策継続について。	・感染防止に関する知識習得。 ・感染時の対応方法。	・新型コロナのみならず、インフルエンザ、ノロウイルス等、感染症に対する研修等による知識習得、対策実施。 ・行政ネットワークの協力体制の把握、相談連絡先の明確化。	12ヶ月
2	35	○災害対策 利用者の重度化により、職員のみでの避難誘導が必要となり、新人職員が多いことが課題となっている。	・災害発生時の昼夜を問わず安全に避難を行う協力体制の構築。 ・全職員が迅速、安全に避難できる方法の周知徹底。	・近隣住民との合同訓練や、日頃からの関わりによる協力体制を作る。 ・役割分担を具体化し、避難訓練等にて実際に実施することで役割を明確化する。 ・職員連絡網を使い、緊急時の連絡、集合の訓練を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。